

## 臨床指標

### ■ 2023年度 医療の質可視化プロジェクト

当院は、医療の質向上の為に体制整備事業 公益財団法人 日本医療機能評価機構の「医療の質可視化プロジェクト」に参加しています。

#### ◆ 医療の可視化プロジェクトとは

我が国の全病院を対象とした指標を活用し、医療の質を可視化するプロジェクトです。病院の機能・規模等に関わらず、本事業で検討した質管理に重要な指標を計測し、医療の質のさらなる向上を目指すオールジャパンの取り組みです。

#### ◆ 目的

「医療安全」「感染管理」「ケア」に関連した代表的な指標を計測・可視化することで自院の立ち位置や問題点を把握し、医療の質向上を目指します。

#### ◆ 計測対象期間

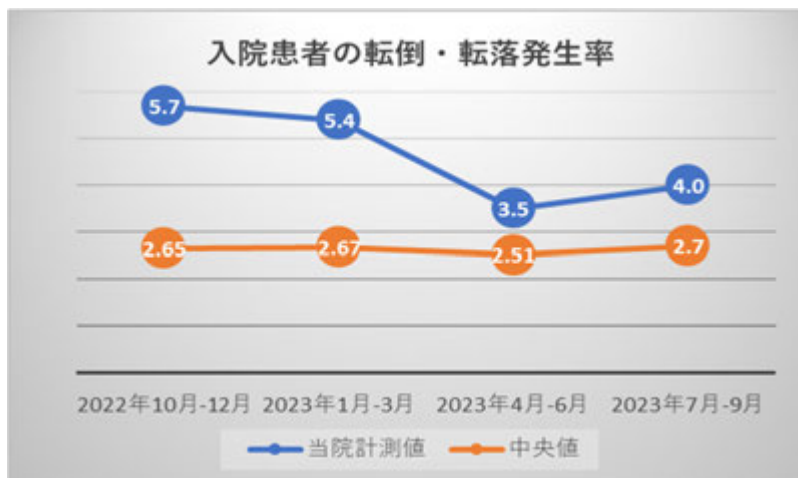
- ① 2022年10月1日～12月31日
- ② 2023年1月1日～3月31日
- ③ 2023年4月1日～6月30日
- ④ 2023年7月1日～9月30日

#### ◆ 対象

医療の質向上に向け指標を用いた取りくみに関心のある病院（552病院の計測値）

医療安全

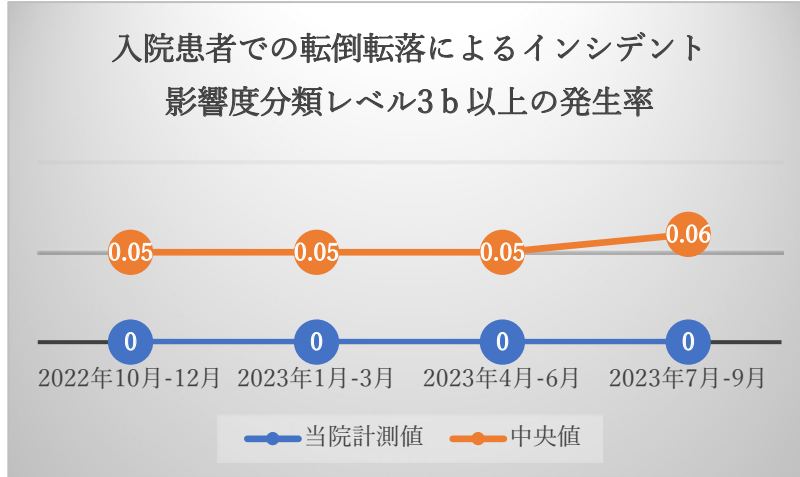
### 入院患者の転倒・転落発生率



入院中に発生した転倒・転落の発生率を示しています。医療の可視化プロジェクトに参加した病院の中央値よりも、当院の数値は、やや高くなっています。事例分析から導かれた予防策を実施し、転倒・転落の発生リスクを低減してきよう取り組んでいます。

$$\text{計測値}(\%) = \frac{\text{入院患者に発生した転倒・転落件数}}{\text{入院延べ数}} \times 1000$$

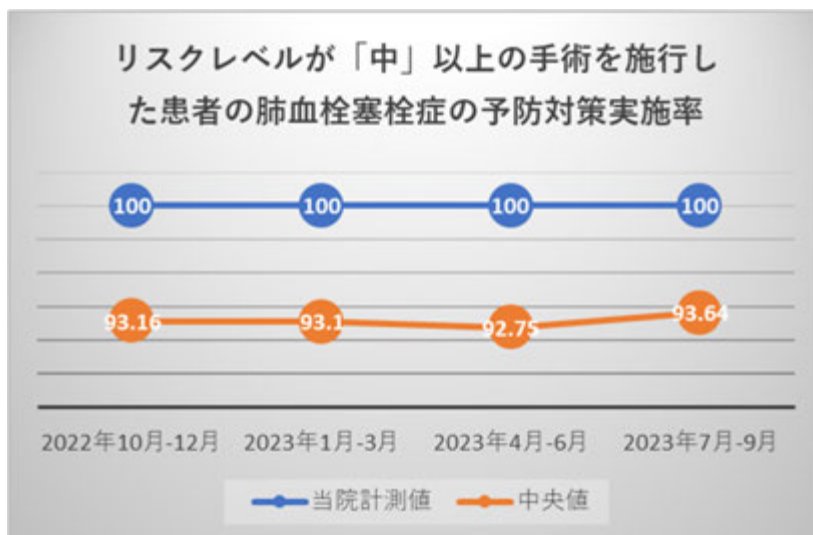
## 入院患者での転倒転落によるインシデント影響度分類レベル3b以上の発生率



入院中に発生した転倒・転落のうち、傷害が発生した率を示しています。インシデント3bとは、事故の為に継続的な治療が必要となった状態をいいます。当院では、傷害発生事例はありませんでした。継続して傷害予防に努めてまいります。

$$\text{計測値}(\%) = \frac{\text{入院患者に発生したインシデント影響度分類レベル3b以上の転倒・転落件数}}{\text{入院患者延べ数}} \times 1000$$

## リスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策実施率

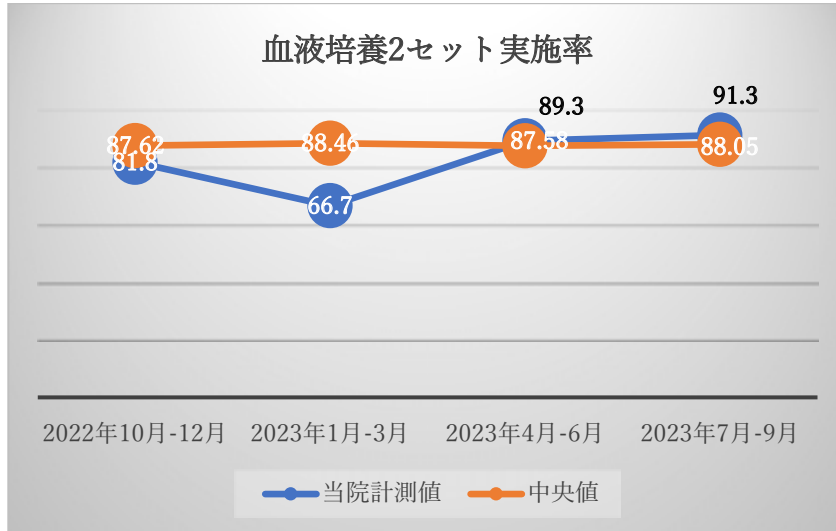


周術期の肺血栓塞栓症の予防行為の実施は、肺血栓塞栓症の発生率を下げる事ができます。当院では、100%の実施率となっています。継続して取り組んでいきます。

$$\text{計測値}(\%) = \frac{\text{分母の内、肺血栓塞栓症の予防対策が実施された患者数}}{\text{肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数}} \times 100$$

感染管理

血液培養 2 セット実施率



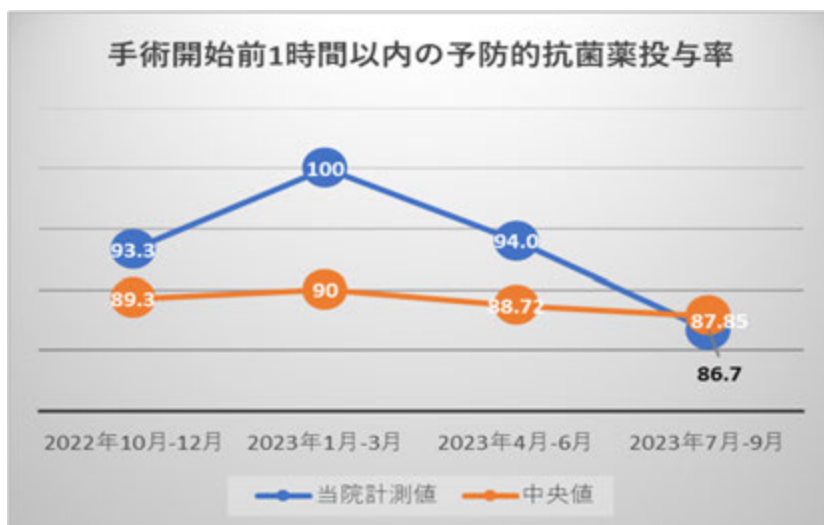
広域抗菌薬を使用する際、投与開始時に血液培養検査を行うことは、望ましいこととされています。血液培養は、1セットのみの場合の偽陽性による過剰治療を防ぐ為、2セット以上行う事を推奨されています。当院では、2022年10月から2023年3月までは、中央値より低い傾向にありますが、2023年4月以降は中央値よりも高い実施率になっています。

$$\text{計測値 (\%)} = \frac{\text{血液培養オーダーが1日に2件以上ある日数}}{\text{血液培養のオーダー}} \times 100$$

広域スペクトル抗菌薬使用時の細菌培養実施率

※今年度は提出していません。

手術開始前1時間以内の予防的抗菌薬投与率

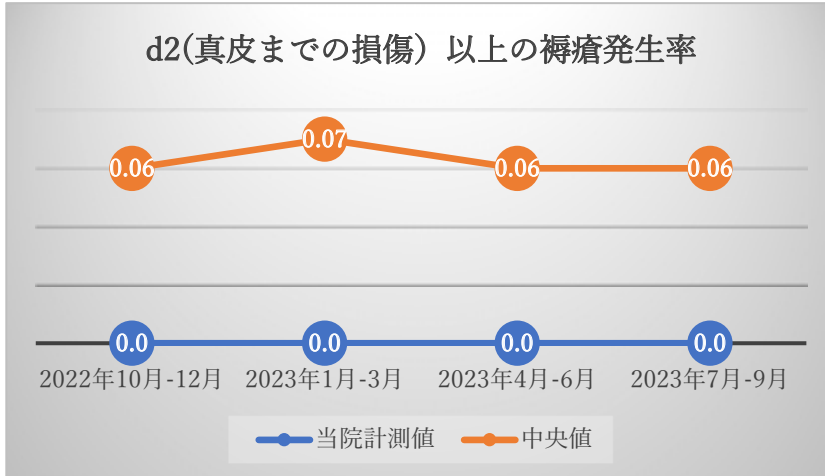


現在細菌感染をおこしていませんが、手術後の感染をできるだけ防ぐために、抗生物質をあらかじめ投与することを予防的抗菌薬といいます。手術開始直前(1時間以内)に抗菌薬を点滴などで投与することで、手術後の感染を抑えることが期待されています。当院では、2023年6月までは、中央値を上回っていますが、7月からは中央値をやや下回っています。改善に努めます。

$$\text{計測値 (\%)} = \frac{\text{分母の内手術開始前1時間以内に予防的抗菌薬が投与された手術件数}}{\text{手術室で行った手術件数}} \times 100$$

ケア

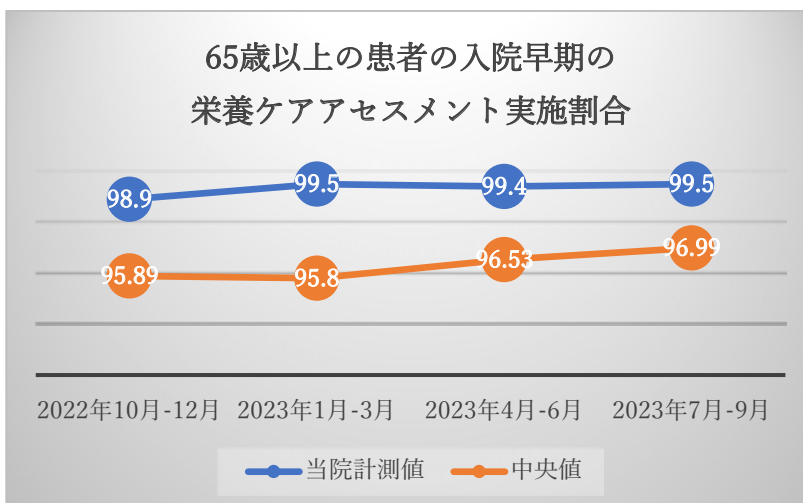
d2(真皮までの損傷)以上の褥瘡発生率



褥瘡は、看護ケアの質の評価の重要な指標です。院内で入院中に発生したd2(真皮までの損傷)以上の新規褥瘡の発生率を示しています。当院では、発生率は0%となっています。引き続き、褥瘡予防対策に努めて参ります。

$$\text{計測値 (\%)} = \frac{\text{D2 (真皮までの損傷) 以上の院内新規褥瘡発生患者数}}{\text{入院患者延べ数}} \times 100$$

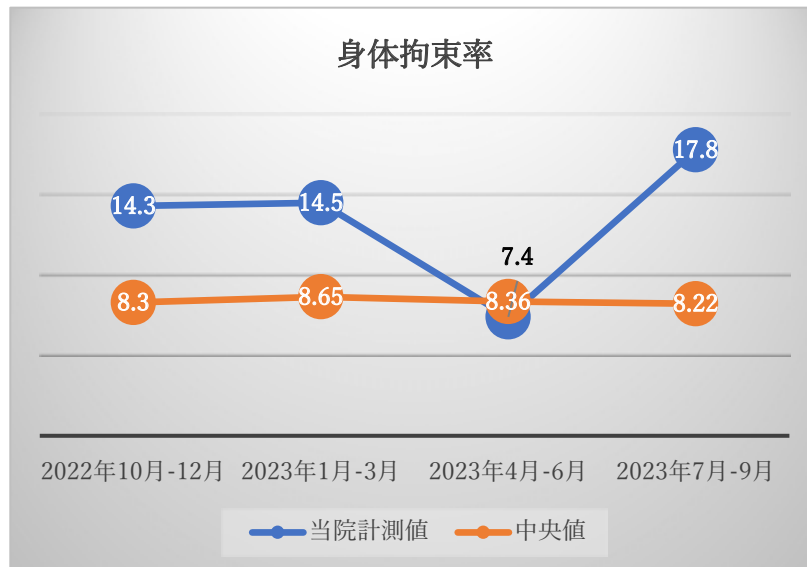
65歳以上の患者の入院早期の栄養ケアアセスメント実施割合



入院早期に低栄養リスクを評価し、適切な介入を行うことは、在院日数の短縮や予後の改善につながります。当院では、おおむね3日以内に栄養ケアアセスメントが実施できており、中央値よりもやや高い実施率となっています。

$$\text{計測値 (\%)} = \frac{\text{分母の内入院3日までに栄養ケアアセスメントが行われたことがカルテに記載された患者数}}{\text{65歳以上の退院患者数}} \times 100$$

## 身体拘束率



「生命の危機、病状の悪化の可能性」などの理由から、やむを得ず物理的身体拘束を実施した率を示しています。身体拘束は、原則行ってはならない行為です。当院では中央値よりも高く、改善すべき重要課題ととらえ、身体抑制率の低減に向け取り組んでいます。

$$\text{計測値 (\%)} = \frac{\text{分母のうち物理的身体拘束を実施した患者延べ数}}{\text{入院患者延べ数}} \times 100$$